

奈良のシカ保護管理計画検討委員会 第15回会議

議 事 概 要

1. 日 時 令和8年3月26日(木) 14:00～16:30

2. 場 所 奈良春日野国際フォーラム 蕨
第1回会議室(オンライン含むハイブリッド開催)

3. 議 事

(1) 鹿苑のあり方等検討部会及び関連WGの見直し並びに新規委員の選任候補者

(2) 令和7年度天然記念物「奈良のシカ」保護管理計画の実施状況

(3) 天然記念物「奈良のシカ」保護計画関連事項

- 天然記念物「奈良のシカ」保護計画 令和7年度実施結果
 - 「奈良のシカ」の保護に関する基本方針について
 - 「奈良のシカ」との人身事故、交通事故の発生状況と対策の実施状況
 - 重点保護地区における「奈良のシカ」生息環境の保全について
 - 保護地区における「奈良のシカ」の生息状況について

- 令和8年度実施方針と計画(案)

(4) 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画(第2次)関連事項

- 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画 令和7年度実施結果
 - 令和7年度防鹿柵設置結果および過年度防鹿柵の機能強化について
 - 令和7年度の管理地区(D地区)における捕獲の実施結果
 - 令和7年度モニタリング結果
- 令和8年度実施方針と計画(案)
- 緩衝地区(川上町)における農作物等への被害対策について

(5) 鹿苑のあり方等検討関連事項

- 鹿苑あり方計画について
- 一時収容に関する基準について

(6) 奈良のシカ保護管理計画検討委員会と関連する会議の令和8年度開催計画(案)

4. 資 料

(1) 鹿苑のあり方等検討部会及び関連WGの見直し並びに新規委員の選任候補者

- ・資料 1-1 鹿苑のあり方等検討部会及び関連 WG の見直し並びに新規委員の選任候補者

(2) 天然記念物「奈良のシカ」保護管理計画の実施状況

- ・資料 2-1 令和 7 年度の委員会、各ワーキンググループの開催状況
- ・資料 2-2 令和 7 年度に実施した主な取組
- ・資料 2-3 天然記念物「奈良のシカ」保護管理計画のスケジュール（案）

(3) 天然記念物「奈良のシカ」保護計画関連事項

- ・資料 3-1 天然記念物「奈良のシカ」保護計画 令和 7 年度実施結果概要
- ・資料 3-2 「奈良のシカ」の保護に関する基本方針（案）
- ・資料 3-3 令和 7 年度の「奈良のシカ」による人身事故への対応
- ・資料 3-4 「奈良のシカ」と車両との交通事故対策
- ・資料 3-5 シバ草地の保全・再生実施方針（案）
- ・資料 3-6 堅果類の分布状況及び結実状況
- ・資料 3-7 保護地区における「奈良のシカ」の生息状況
- ・資料 3-8 天然記念物「奈良のシカ」保護計画 令和 8 年度実施方針と計画（案）

(4) 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画関連事項

- ・資料 4-1 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画 令和 7 年度実施結果概要
- ・資料 4-2 令和 7 年度防鹿柵設置および過年度設置防鹿柵の機能強化
- ・資料 4-3 令和 7 年度の管理地区（D 地区）における捕獲の実施結果
- ・資料 4-4 令和 7 年度モニタリング結果
- ・資料 4-5 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第 2 次）令和 8 年度実施方針と計画（案）
- ・資料 4-6 緩衝地区（川上町）における農作物等への被害対策

(5) 鹿苑のあり方等検討関連事項

- ・資料 5-1 鹿苑のあり方等の検討スケジュール（案）
- ・資料 5-2 鹿苑のあり方等計画の実施状況
- ・資料 5-3 鹿苑のあり方計画（令和 8 年 3 月版）
- ・資料 5-4 一時収容に関する基準（案）

(6) 奈良のシカ保護管理計画検討委員会と関連する会議の令和 8 年度開催計画（案）

- ・資料 6-1 奈良のシカ保護管理検討委員会と関連する会議の令和 8 年度開催計画（案）
- ・参考資料 1 第 14 回奈良のシカ保護計画検討委員会 議事概要

5. 出席者

【出席者名簿】 敬称略

	氏 名	役 職 名
委員長	村上 興正	元京都大学 講師
委 員 (五十音順)	朝廣 佳子	鹿サポーターズクラブ 会長
	高柳 敦	元京都大学 准教授
	立澤 史郎	北海道大学大学院 招へい教員
	田中 亜紀	日本獣医生命科学大学 特任教授 (欠席)
	鳥居 春己	元奈良教育大学 教授 (欠席)
	松井 淳	奈良教育大学 特任教授
	中西 康博	一般財団法人奈良の鹿愛護会 副会長
	渡邊 伸一	奈良教育大学 教授 (欠席)
オブザーバー	江戸 謙顕	文化庁文化財第二課 文化財調査官 (欠席)
	北野 治	春日大社 管理部長 (欠席)
	山崎 伸幸	一般財団法人奈良の鹿愛護会 事務局長
	森光 由樹	兵庫県立大学 准教授 日本野生動物医学会評議員 (欠席)
県関係課	食農部農業水産振興課	
	地域創造部文化財課	
市関係課	奈良市観光経済部農政課	
	奈良市教育部文化財課	
関係団体	奈良公園のシカ相談室	
	奈良阪町農家組合	
事務局	奈良県観光局奈良公園室 奈良市観光経済部観光戦略課	

6. 議事概要

(1) 鹿苑のあり方等検討部会及び関連WGの見直し並びに新規委員の選任候補者【報告・決定事項】

【決定事項】

- 奈良のシカ獣医学 WG は発展的解消とし、一部委員は鹿苑検討部会、鹿苑検討 WG に参加する。
- 朝廣委員に関しては来年度より鹿苑 WG の委員とする。
- 元獣医学 WG の森光委員に関しては来年度より検討委員会、鹿苑検討部会、鹿苑検討 WG の委員とする。

(2) 令和7年度天然記念物「奈良のシカ」保護管理計画の実施状況

【主な意見】

- 今後の個体群の動態を調べる必要がある。
- シカの移動等を考慮して生態学の専門的な視点から議論する必要があるため、来年度、専門家会議を立ち上げ議論する予定である。

(3) 天然記念物「奈良のシカ」保護計画関連事項

【決定事項】

- 「奈良のシカ」の保護に関する基本方針（案）は了承された。

【主な意見】

○資料 3-1 天然記念物「奈良のシカ」保護計画 令和7年度実施結果概要

- シカマナーについて記載した大型看板を近鉄奈良駅に掲示するなど、取組を強化している。

○資料 3-2 「奈良のシカ」の保護に関する基本方針（案）

- 保護に関する基本方針は非常に重要な問題である。
- 野生動物との関係をきちんと考える必要がある。
- ペットではないため、触ってはいけないのは原則である。

○資料 3-3 令和7年度の「奈良のシカ」による人身事故への対応

- 人身事故に関して、コロナ禍前は多く、コロナ期間は少なく、コロナ禍後に増えてきた。発生場所は、東大寺南大門前の参道が最も多い。2 番目が登大路園地、3 番目が国立博物館前である。
- 鹿せんべいを与えるとき、与え終わったときに噛まれることがある。外国の方が一番気にするのが狂犬病であるが、日本では狂犬病の清浄国であるため、狂犬病のおそれはない。このように、人獣共通感染症は非常に重要な問題であり、一度起こったら大変なことである。そのため、野生動物医学の専門家に委員に入っていただく。
- シカの導線と人の導線を考える必要がある。シカの導線には人の影響もある。
- 人身事故については季節別のデータも示した方が、傾向がわかる。
- 10 月にオスの突きが多い。これは発情期で予測できるため、広報していき、被害を抑えたい。

○資料 3-5 シバ草地の保全・再生実施方針（案）

○資料 3-6 堅果類の分布状況及び結実状況

- 春～秋はシバ、秋～冬は堅果類。これらを調べることでシカの餌状況を把握する。堅果類の豊凶についてはクマでも調べられている。奈良公園での状況は明らかになっておらず、シカの動態を考えるうえでは重要であるため、今回初めて調べた。
- シバの調査では、50m メッシュで区切ったのは粗いと思うが、メッシュ面積 0.25ha でかけるとおよその面積が出てくる。既存文献でシバの生産力はある程度分かると思うため現存量等を推定できる。推定幅はかなり大きく、数字の独り歩きが怖いと思うが、そのような情報を出していくとよい。
- シバには生産速度があり、食べられたらそのまま生えてくる。シカを排除した区画を作って生産速度を把握する必要がある。
- 堅果類の結実状況の成り年を知ることは重要である。モニタリング木を設定したこと、追跡調査を行うことを明記した方がよい。
- 人の踏圧とシカの採食の 2 つがシバに影響している。人の踏圧の場合は、イベントの抑制等、影響が大きくなることが予測される。
- 資料 3-5、p.3 図 2 左端は「20%未満」である。また、表にするほうがよい。
- 資料 3-5、図 3 に図 5、図 6 の一部を合わせてシカや人の利用と併せてシバの状態がわかると直感的にわかりやすい図となる。
- ここで考えるべきこととして 2 点あり、1 つは人の踏圧、シカの採食圧の按配を可視化すること。季節的变化や空間構造、子育ての場所も重要となる。もう 1 つは、環境収容力である。今の頭数に対して自然の餌はどのくらいあるのか。野生動物なので人が介入しなくても生息できる。そこを目指さないといけない。
- 鹿せんべい以外の給餌の影響もある。それらを含めて総合的な管理をする必要がある。今後数年かけて進める必要があるが、令和 8 年度には方向性を示したい。

○資料 3-7 保護地区における「奈良のシカ」の生息状況

- 表 3 に単位つけてほしい。50%＝中央値であることを明記すること。
- いつも 1 月半ばで終わっているため、その時期までの解析では例年と同じになるのではないか。出現に季節変化があるため、1/25 までのデータで解析した結果も見たい。
- 50 頭/km²で個体数は頭打ちになり死亡個体も出てくる例もあるため、個体群動態を調べるうえで続けることが重要である。どれだけで頭打ちになるのか。シカの自然分散にも繋げられる。
- 春日山が低かったのは、平坦部が多かった可能性もある。できれば毎年やっていただきたい。

○資料 3-8 天然記念物「奈良のシカ」保護計画 令和 8 年度実施方針と計画（案）

- シバの再生について、具体的な目標を立てられる、計画的に進められるのではないか。生息環境の改善が先延ばしになる。
- WG でも、調査ばかりやって実践がないという意見があったため、実践し、それを検証したい。

（４） 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第 2 次）関連事項

【決定事項】

- 令和 8 年度実施方針について了承された。

【主な意見】

○資料 4-3 令和 7 年度の管理地区（D 地区）における捕獲の実施結果

- 450 頭捕獲しても現状維持の状態のため、今後はもっと捕獲枠を増やすことも検討する必要がある。
- 捕獲の 4 つの条件はとても重要なので記載すること。
- CPUE も密度指標として簡単なコメントがあるとよい。
- 450 頭という捕獲数のみが独り歩きした状態にならないように気を付けてほしい。

○資料 4-4 令和 7 年度モニタリング結果

- 柵に関しては、来年度、効果検証する必要がある。
- 柵で重要なことは、農家の方が維持管理できること、地域の方の理解を得られることである。
- 生息密度のモニタリングに関して、D 地区だけでなく、B,C 地区も記載すること。
- 捕獲個体の位置、空間分布が重要であり、遺伝子解析にも役立つかもしれない。

○資料 4-6 緩衝地区（川上町）における農作物等への被害対策

- A 造園において生捕が 150 頭と非常に多く、こちらの被害を抑えるのが緊急となる。

（５） 鹿苑のあり方等検討関連事項

【決定事項】

- 鹿苑のあり方計画（令和 8 年度 3 月版）について了承された。
- 一時収容に関する基準（案）について了承された。

【主な意見】

- 獣医師の中でも奈良のシカ管理においては野生動物獣医師が重要である。
- 一時収容後、野生で生きていけるような状態で放獣する。野生よりも栄養状態が良い状態で放獣すると、野生動物の個体群を崩壊させてしまうため、ペットと同じように扱うという考えは捨てるべきである。
- 終生飼養するのではなく、一時収容して野生に戻すのが鹿苑の役割である。

（６） 奈良のシカ保護管理計画検討委員会と関連する会議の令和 8 年度開催計画（案）

【決定事項】

- 状況に応じて柔軟に開催を調整することとし、会議開催計画について了承された。

【主な意見】

- 3 委員会意見交換会が重要であるが、記載されていないため、追加すること。

以上